
OSSデスクトップ普及促進 に関する提言

2009年3月

日本OSS推進フォーラム
プラットフォーム部会
デスクトップ普及戦略検討タスクフォース

目次

- 提言の目的と骨子
 - 共通文書形式に関するODF化の推進
 - デスクトップ領域における普及のキーポイント
- OSSデスクトップの現状
 - OSSデスクトップアプリケーションの普及
 - UMPCの販売が加速(諸外国ではLinuxのシェアも高い)
- OSSデスクトップの普及に向けて必要なこと
 - 情報提供に関する環境整備
 - コストメリットも再考の余地あり
- 本TFにおける議論のまとめ

某メーカーでは
販売するUMPCの
30%がLinuxを
搭載している！

提言の目的

- サーバ用途で普及しているOSSはデスクトップでも利用価値が高いことの認識
 - OSSを活用して日本におけるIT産業の基礎力を強化するためには、サーバ分野、組み込み分野等プロフェッショナル領域のみならず、一般を対象とした周辺領域でのOSS活用も重要
- OSSのデスクトップ利用に関する周辺環境は変化した
 - 技術的には、ほぼ問題なく利用可能
 - マインドセットの変化が追いついていない
- OSSデスクトップ領域がビジネスになることを再確認していただきたい

OSSデスクトップ普及の具体策

- 共通文書形式に関するODF化の推進
 - 公的機関が率先して標準データ形式を採用すべき
 - 情報システムに係る政府調達の基本指針(2007/7発効)
 - 情報システムに係る相互運用性フレームワーク(2007/6/29、経済産業省)
- デスクトップ領域における普及のキーポイント
 - Linuxプリインストール機器の推進
 - (世界でできて日本で何故できないのか!)
 - インターオペラビリティの確保 ⇒ ODFの推進
 - 利用者におけるマインドセットの変革 ⇒ 情報提供、公的機関や大手ベンダーによるマーケットドライブ

現状 (We NEED Change! Yes, We Can.)

- 「そもそも現状維持でよいのか」という問題提起が必要！
 - いつまでもWindows XP？
 - Windows 7が出てきたらどうなる？
 - いつまでも現状維持... よくない、できない
- 「固定化されたクライアント環境の寿命問題」が顕在化する恐れ
 - Windows XP(およびそれ以前)を前提としたシステム構築
 - Internet Explorer 6(!)を前提としたWebアプリ、等
- いずれ来るサポート終了
 - セキュリティホールは誰が塞ぐ？
 - システム更新もできなくなる

「オープン標準」前提のシステム構築への意識改革が重要

- OSSであればなお透明性が高まる

OSSデスクトップを取り巻く変化

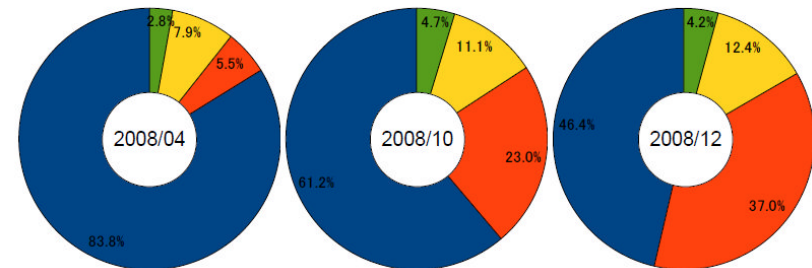
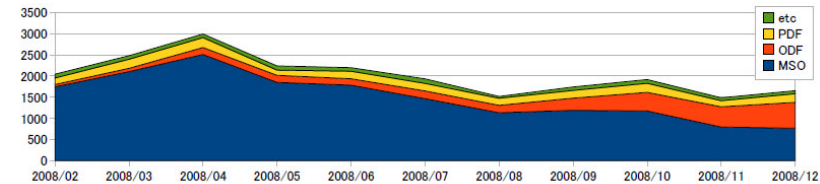
■ OpenOffice.orgの導入が加速

□ 会津若松市の事例

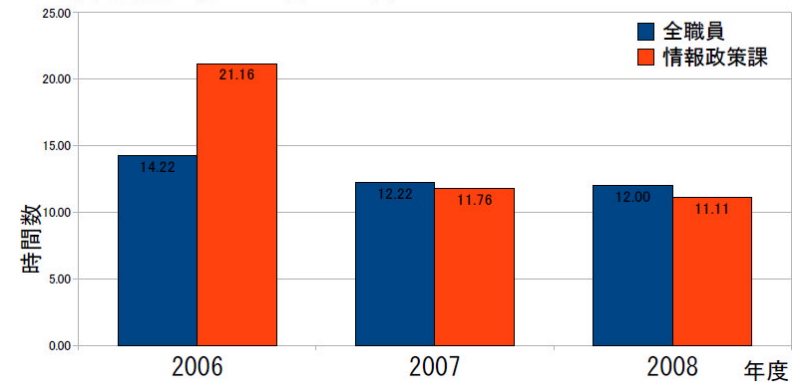
- 2008年5月、市内850台のPCでOpenOffice.orgへの移行が決定
- 標準文書フォーマットをODFに

□ 現状

- 全台に導入済み
- 240台がOpenOffice.orgのみ
- 約300万円のライセンス費を削減
- 労働時間は増えていない(生産性は変わっていない)



時間外勤務比較 04月～11月



文書管理システムの添付文書種類(上)

時間外勤務時間の推移(下)

出典: 会津若松市「OpenOffice導入経過報告」

UMPC – Linuxデスクトップの 起爆剤たりえるか(?)

- 台湾Acer技術者へのImpress記者によるインタビュー記事「【特別企画】台湾ネットブック開発者インタビュー【Acer編】（2008年10月14日）」より引用

Q Aspire oneのLinuxとWindows XPの割合はどれくらいなのでしょう。

Kan氏 7割がWindows XPです。これは、Linuxが基本的に新興市場を対象にしているからです。このLinuxは我々がインターフェイスなどを開発していますが、その開発費を含めても、1台あたりのコストはWindows XPの半分程度に収まります。ただ、欧州ではLinuxに対する要求があるので、成熟市場の中でも例外的にLinuxを出しています。

Q Linuxモデルは3割しかなくても、今後も続けていくのでしょうか。

Kan氏 はい、今後も続けます。Windows XPの方が人気はありますが、構造的にネットブック向けには、やや重厚長大すぎる点があるからです。

<http://pc.watch.impress.co.jp/docs/2008/1014/netbook06.htm> から引用

UMPC – Splashtopの可能性

- Splashtop: UMPCの隠れた機能
 - ASUS ... 「ExpressGate」
 - HP ... 「VooDoo IOS」
 - Lenovo ... 「Quick Start」
- 瞬間起動(数秒)でWebブラウザ、Skype、その他のアプリケーションが利用可能に
 - BIOSに組み込まれており、一般的なOSの起動不要
 - Linuxベース
- OSSデスクトップと呼んでよいか？

普通に仕事ができる ⇒ デスクトップ・コンピュータでは？

OSSデスクトップの普及に向けて

- OSSの利用はサーバ分野で先行した
 - 管理者(ユーザ ≒ 開発者)はOSSに対して抵抗感が少なかったため

OSSの本格的な普及には、デスクトップ利用が不可欠

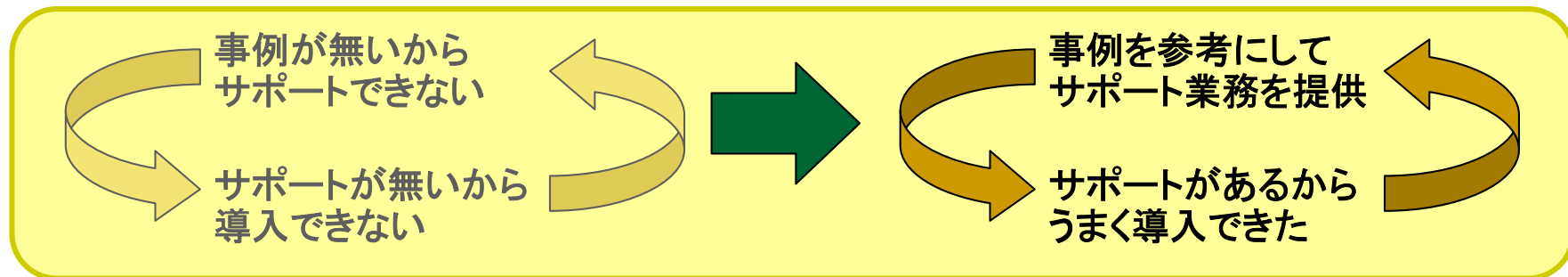
- OSSのデスクトップ利用に必要なもの
 - 一般的なユーザからの理解
 - 幅広いレベルのユーザが利用できる操作性やインタフェースの提供
 - 多種多様なニーズに応えるアプリケーションのラインナップ
 - 様々な機器構成・周辺機器への柔軟な対応

技術的には多くの課題が解消
情報提供・PR・サポート環境の整備が必要

情報提供に関する環境整備

■ サポート業務の支援

- 導入事例とサポート業務育成の悪循環を好循環へ



■ OSS iPedia の改修

作成: デスクトップ普及戦略検討タスクフォース

- 情報提供環境としてひとつの有力な手段
- OSS iPediaに登録されている導入事例はサーバ構築事例が中心
- 登録フォーマットもサーバ向け ⇒ デスクトップ導入事例を登録できるように、IPAに対しリクエストを提出

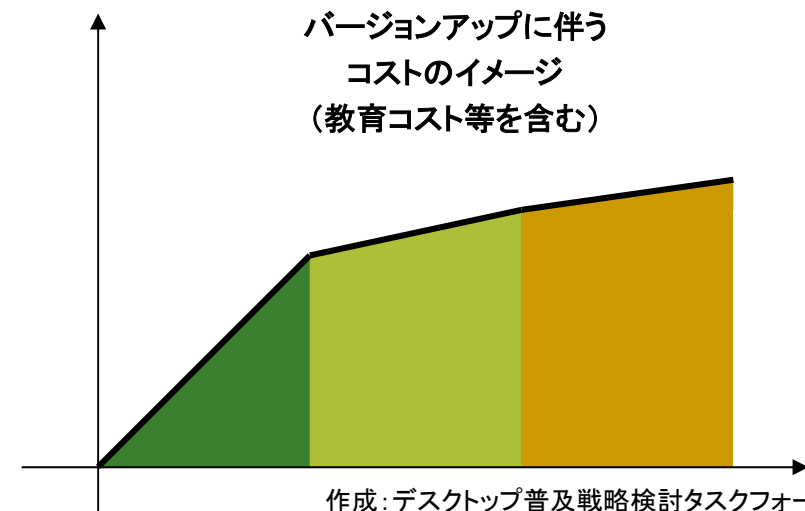
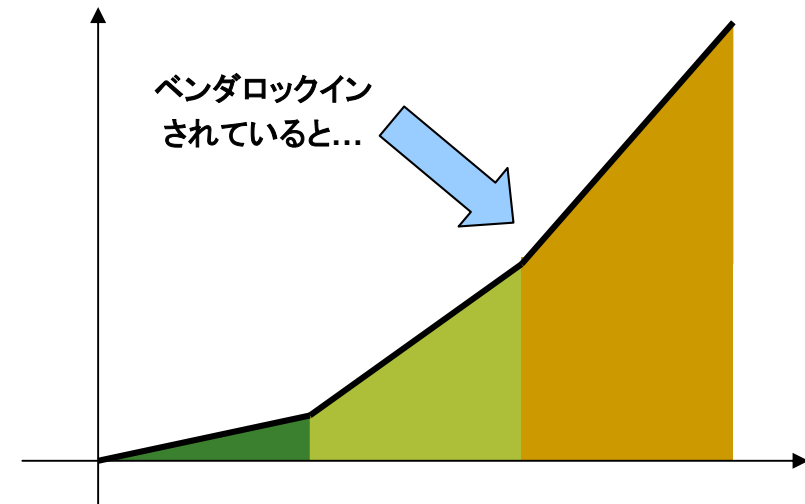
デスクトップ活用事例ポータルサイトの提案、その他の普及振興施策

- OSS iPediaもよいが、双方向性を持つ専用のポータルサイトを構築しては？
- 中国の例：
 - OSSアプリケーションに関するYP
- 各種メディアに対するPR
 - 他プラットフォームへのアピール
 - WindowsやMac等の雑誌に寄稿
 - 同、カンファレンスでの発表
- 国内PCベンダへの提言
 - これまではサーバ中心(サーバ中心に独自の広告)
 - UMPCでOSS利用推進か?と思いきや...



OSS利用によるコストメリット

- 既存路線踏襲が本当に正解か？
 - XP→Vista (Windows 7) や、MS-Officeのバージョンアップにかかるコストは無視できない
 - OSSに移行してもコストはかかる、が、どうせコストがかかるなら...
- OSS移行のメリット
 - 長期的な視点に立ったときに、トータルコストはどうなるか？
 - 単純にバージョンアップして終わりではOK？
 - ODF対応でDB連携など、OSSの発展性に期待



デスクトップ普及戦略検討TFにおける 議論のまとめ

- 「オープン標準」を意識したシステム整備すべき
- OSSデスクトップを取り巻く技術的環境は整った
 - 機は熟した
- 一般ユーザに対する啓発やベンダ側の意識は遅れている！
- 情報提供等の支援策が必要
- コストメリットの観点も再検討の余地あり

この文書について

- 本文書は「Creative Commons 表示-継承 2.1 日本」ライセンスの条件で公開します
- 本文書の著作権は「デスクトップ普及戦略検討TF」参加メンバーに帰属します
- デスクトップ普及戦略検討TFメンバー一覧

飯尾 淳(主査)	株式会社三菱総合研究所	小林 勝哉	NTTコムウェア株式会社
飯田 敏樹	ノベル株式会社	阪田 光保	ノベル株式会社
井上 直	財団法人ニューメディア開発協会	澤崎 章二	株式会社ジャストシステム
今給黎 道明	キヤノンITソリューションズ株式会社	千葉 大作	株式会社アルファシステムズ
江後田 基広	株式会社グリーンテック	中田 克繁	キヤノンITソリューションズ株式会社
大釜 秀作	住友電気工業株式会社	中田 まゆみ	エクスネット株式会社
大澤 一郎	独立行政法人産業技術総合研究所	堀 健一	日本電気株式会社
岡田 忠	国際化JP株式会社	森蔭 政幸	ターボリナックス株式会社
川井 和正	東芝デジタルメディアエンジニアリング株式会社	渡辺 義人	株式会社アルファシステムズ